令和元年度

道徳教育振興だより

滋賀の子どもたちにこころの元気を

道徳科を要とした道徳教育の充実

令和2年3月　滋賀県教育委員会

刊行に寄せて

滋賀県教育委員会事務局　幼小中教育課長　　辻本　長一

今年度から、各学校では「第Ⅱ期学ぶ力向上滋賀プラン」に基づき、「読み解く力」の育成に重点をおいた３つの視点からの取組を進めていただいているところです。視点 1「学びを実感できる授業づくり」については、「考え、議論する」という道徳での授業の視点を大切に、すべての教科等において展開、発展させていただくものです。また、視点２「学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり」については、具体的な取組例に「思いやりの心を育む道徳教育の推進」が例示されています。違いを認め合い、信頼し合える集団づくりは、視点１の授業づくりの土台です。最後に視点３「子どものために一丸となって取り組む学校づくり」については、校長先生のリーダーシップのもと、学校としての課題解決に向け担当教員を中心に全教員で組織的に取り組むという点で、道徳教育をはじめどの分野でも充実が求められているところです。

「令和元年度　道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の各推進校においては、道徳教育の充実、道徳科の授業づくりを「学ぶ力向上策」の中心に据え、実践を重ねてこられました。本冊子には、その成果を掲載しています。

各学校におかれましては、ここに挙げた事例を参考にしていただきながら、子どもたちの心の教育の充実を図るため、組織的な道徳教育の推進に努めていただければと存じます。また、本冊子の事例が、学校はもとより、家庭、地域社会における道徳教育推進のため御活用いただければ幸いです。

目　　次

□刊行に寄せて　幼小中教育課　課長　辻本　長一
●悩んでいる、きみへ　滋賀県道徳教育推進協議会　会長　押谷 由夫 …… 1
●各発達段階における道徳教育の方向性や目標 …… 4
●道徳教育の多様な展開 …… 5
●道徳教育の取組例
・大津市立晴嵐幼稚園　「道徳性の芽生えを育む工夫」 …… 6
・湖南市立菩提寺小学校　「各教科等と関連をもたせた指導」 …… 7
・高島市立高島学園　「児童生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫」 …… 8・9
・草津市立南笠東小学校　「ねらいに応じた多様な指導方法の工夫」 …… 10
・草津市立新堂中学校　「ねらいに応じた多様な指導方法の工夫」 …… 11
・湖南市立甲西北中学校　「生徒の発達や個に応じた指導の工夫」 …… 12
・滋賀県立大津高等学校　「生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究する指導の工夫」 …… 13
●推進地域・企業の取組 …… 14・15
●自分への思いを深める「特別の教科　道徳」の在り方（滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会） …… 16・17
●学校・家庭・地域社会で豊かな心を育む（道徳教育推進協議会） …… 18
資料１　道徳科学習指導案の様式（参考例） …… 19
資料２　道徳科の評価について …… 20・21

表紙について

題名「山の麓で見つけたヴォーリズ建築」（第 66 回滋賀県教育美術展　特選）

私のお気に入りのヴォーリズの建物を描きました。黄ボール紙に白い壁のヴォーリズの建物を描くことで、壁の美しさを引き立たせることができました。また、色付いた木々の美しさをコンテや絵の具を使って工夫して表現しました。

近江八幡市立八幡小学校６年 植出 美桜 さん

悩（なや）んでいる、きみへ

―悩みに向き合うことで、きみは大きく成長する―

押谷　由夫

どうしてこのようなことをしてしまったのだろう
どうしてこのようになってしまったのだろう
どうすればよいのだろう
悩みが次々に出てきます

なぜ悩むのでしょう
悩むというのは
自分と対話をしているということです
つまり自分と向き合っているのです

自分と向き合えるのは人間のみです
そのことによって
心を鍛えていくことができます
そして人間として成長していけるのです

悩みには自分で解決できないことも多くあります
そのときには相談することが大切です
と同時に自分と向き合うことをわすれてはいけません
そうでないと人まかせになってしまいます

悩みをもったとき
その悩みはどうして出てきたのだろうかと考えます
どんな悩みも、つきつめれば
もっとよくなりたいという心があるからだと気づきます

その心をどのように伸ばしていけばよいのでしょう
そのことを真剣に考えます
すると悩みも少しやわらいできます
そして解決策も見えてきます

道徳の授業はこのことを学んでいくのです
悩みに向き合うことは自分と対話をすることです
いろんな状況にいる人々のことを教材を基にみんなで考えます
そこから自分なりの解決策を見出していくのです

「特別の教科　道徳」の目標を深く読み解こう

武庫川女子大学　押谷　由夫

新学習指導要領による学校教育が、小学校では来年度から、中学校では再来年度から、全面実施されます。道徳教育改革は、それらを先導する形で、進められています。その中核となるのが、「特別の教科　道徳」です。つまり、これからの学校教育改革を進めていくには、「特別の教科　道徳」の目標について、しっかりと理解することが必要なのです。

「特別の教科　道徳」は道徳教育の目標を実現するためにある

「特別の教科　道徳」の目標は、最初に「第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき」と記されています。そして、その基本が「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」と示されています。つまり、「特別の教科　道徳」は、道徳教育の目標を実現していくためのものであるということです。

そして、総則の第1の2の（2）には、「学校における道徳教育は、特別の教科である道徳を要として学校教育全体を通じて行うものであり」と記されています。学校における道徳教育は、道徳教育の目標の実現を目指して、それぞれの教育活動の特質を生かして全教育活動で行われるということです。つまり、「特別の教科　道徳」は、道徳教育の目標を実現するための要となるものであり、全教育活動における道徳教育と響き合わせた指導を行うことが求められているのです。

「道徳的諸価値の理解を基に」とはどういうことか
―道徳的諸価値と関わらせて人間理解を深めることが基本―

「特別の教科　道徳」の目標は、次に「道徳的諸価値の理解を基に」と記されています。これは、どのようなことを意味しているでしょう。このことばも、道徳教育の目標と関連させて捉える必要があります。

道徳教育の目標は、「自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」（かっこ内は中学校）となっています。このことと関わらせて考えますと、道徳的諸価値は、人間として生きるための基本となるものであり、そのことをしっかりと理解する必要があるということになります。

つまり、道徳的諸価値について詳細に分析し理解を深める、といった各教科において求める知識理解とは異なるのです。ここで求めているのは、人間として生きるということと、道徳的諸価値を理解するということとを一体的に考え、人間として生きるとはどういうことかについての思いを膨らませることです。

具体的には、例えば、思いやりの心は人間として生きていく上で必要不可欠なものであること。そのことによって心を豊かにしていくことができるし、互いに力を合わせてよりよい社会を創っていくことができること。思いやりの心は、いろんな状況の中で捉える必要があり、逆の行動をとってしまうこともあること。そのような課題に正対し少しでも克服することで人間として成長していけること、そのことが人間の誇りであること、等を自覚できるようにしていくのです。

「自己を見つめる」とはどういうことか
―道徳的価値に照らして今までの自分、今の自分、これからの自分を見つめる―

「自己を見つめる」とは、自分との対話を意味します。自分について深く考えるということであり、自己理解を深めることでもあります。では、どのように自分を見つめ自己理解を深めていけばよいのでしょう。ここでも、道徳教育の目標と関わらせて捉える必要があります。つまり、人間として自分らしくよりよく生きるということに関わって「自分を

見つめる」ということです。そのためには、人間らしさの根幹となる道徳的価値に照らして自分と対話することが求められます。自分の中にある道徳的価値意識や実際の姿を、過去の自分、現在の自分、これからの自分を探っていくことから再確認していくのです。

そして、様々な関わりの中で生きている（生きてきた、生きていく）自分を自覚し、そこから自己の成長と共に、自己の課題を見出し、その克服へと意欲づけられるような見つめ方が求められます。そのことを、ともに行うことによって、よりよい自己やよりよい社会を創っていけるのです。

「物事を多面的・多角的に考える」とはどういうことか
―道徳的事象や状況を道徳的価値の側面から多様に考え対応できるようにする―

物事とは、道徳的事象や道徳的状況と捉えられます。私たちは、生活する上において、また自分の生き方を考えるときに、様々な道徳的事象や状況に出会います。それらにどう対応するかによって、自己が形成されていきますし、社会も形成されます。

よりよい自己やよりよい社会を創っていくには、道徳的事象や状況を道徳的価値の側面から考える必要があります。つまり、道徳教育においては、多面的・多角的に考えることによって、よりよい自己や社会の創造に向かうようになることが大切です。そのためには、人間らしさの根幹である道徳的価値と関わらせて、多様に考えられることが不可欠なのです。その中で他者理解も深めていきます。

そして、そのような思考を通して、様々な道徳的事象や状況をどう捉え、どう判断し、どう対処すればよいのかについて、主体的に考えられるようにするのです。

「自己の（人間としての）生き方についての考えを深める」
―日常生活や様々な学習活動と響かせて、よりよい自己と社会の創造へとつなげていく―

以上に述べました「道徳的諸価値の理解」と「自己を見つめる」ことと「物事を多面的・多角的に考える」こととは、相互に絡み合わせることが大切です。そのことによって「自己の（人間としての）生き方についての考えを深め」ていきます。そのことが「特別の教科　道徳」の目標だということになります。それを、道徳教育の目標と関わらせて捉えると次のようになります。「特別の教科　道徳」は「人間としての自分らしい生き方についてしっかりと考える」と同時に、日常生活や具体的な教育活動の中で追い求め、よりよい自己や社会を創っていけるように、つなげていくことが大切なのです。

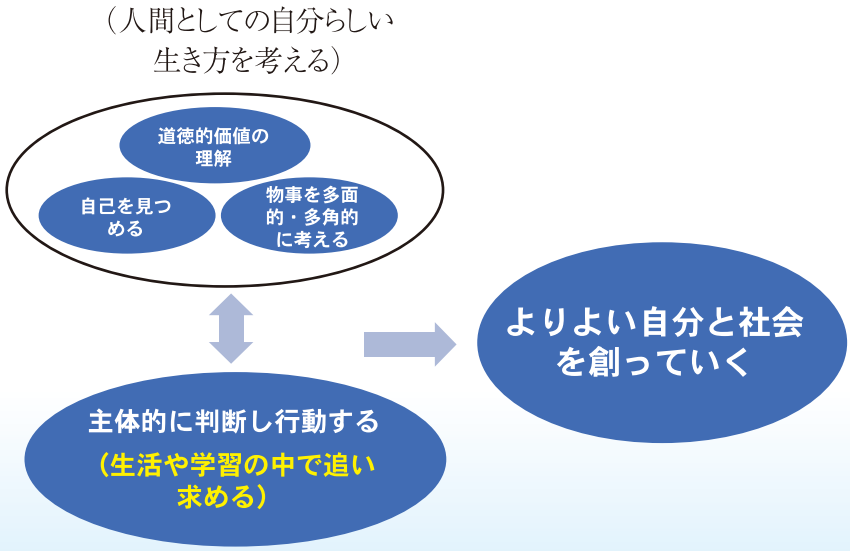


図　道徳教育の目標と「特別の教科　道徳」の目標との一体化

各発達段階における道徳教育の方向性や目標

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」より

（4）道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
（幼稚園教育要領　第1章　総則　第2の3の（4））

道徳教育の目標	特別の教科　道徳の目標

小学校

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。
（小学校学習指導要領　第1章　総則　第1の2の（2））

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
（小学校学習指導要領　第3章　特別の教科　道徳　第1）

中学校

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。
（中学校学習指導要領　第1章　総則　第1の2の(2)）

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
（中学校学習指導要領　第3章　特別の教科　道徳　第1）

高等学校

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。
（高等学校学習指導要領　第1章　総則　第1款2の（2））

校種間の連携を意識しながら、各発達段階における取組を充実させることが重要です。

道徳教育の多様な展開

道徳教育を充実させるため、次に示す内容が重要なポイントになります。

1 道徳性の芽生えを育む工夫

道徳性の芽生えを培うにあたっては、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動することができるようにすること、特に人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきを体験し、それらを乗り越えることで次第に芽生えてくることに配慮することが大切です。

実践 1

大津市立晴嵐幼稚園の取組を紹介します。
（6ページ）

2 各教科等と関連をもたせた指導

各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき、学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進めると、指導の効果を一層高めることができます。その際、各教科等と道徳科それぞれの特質が生かされた関連となるように配慮することが大切です。

実践 2

湖南市立菩提寺小学校の取組を紹介します。
（7ページ）

3 児童生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫

道徳科の指導の目指すものは、個々の道徳的行為や日常生活の問題処理に終わるものではなく、児童生徒自らが時と場に応じて望ましい行動がとれるような内面的資質を高めることにあります。そのため、児童生徒が道徳的価値を自覚できるよう指導方法の工夫に努めることが大切です。

実践 3

高島学園
（高島市立高島小学校）
（高島市立高島中学校）
の取組を紹介します。
（8・9ページ）

4 ねらいに応じた多様な指導方法の工夫

道徳科の指導方法の工夫の視点としては、教材提示、発問、話合い、書く活動、役割演技等の表現活動、板書、説話等が挙げられます。教師自らが多様な指導方法を理解したり、コンピュータを含む多様な機器の活用方法などを身に付けたりしておくとともに、児童生徒の発達段階を捉え、指導方法を吟味した上で生かすことが大切です。

実践 4

草津市立南笠東小学校
草津市立新堂中学校
の取組を紹介します。
（10・11ページ）

5 生徒の発達や個に応じた指導の工夫

生徒の発達には年齢相応の段階があるとともに、個人差が著しいことにも留意し、一人ひとりの考え方や感じ方を大切にした授業展開を工夫することで、生徒が道徳科の主題を自分の問題として受け止め、興味や関心を高められるよう配慮することが大切です。

実践 5

湖南市立甲西北中学校の取組を紹介します。
（12ページ）

6 生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究する指導の工夫

人間としての在り方生き方に関する教育は、学校の教育活動全体を通じて各教科・科目、総合的な探究（学習）の時間および特別活動のそれぞれの特質に応じて実施するものです。特に公民科や特別活動等を中核的な指導の場面として重視し、道徳教育の目標全体を踏まえた指導を行うことが大切です。

実践 6

滋賀県立大津高等学校の取組を紹介します。
（13ページ）

道徳性の芽生えを育む工夫

大津市立晴嵐幼稚園

平成 29 年に告示された幼稚園教育要領の中に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。幼児期における道徳性の芽生えもその一つである。これは、幼稚園における生活全体を通じ、幼児が友達と様々な体験を積み重ねる中で、相互に関連をもちながら育まれるものであり、幼児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない。また、道徳性の芽生えは、「人間関係」の領域と関連が深いと考える。

道徳性・規範意識の芽生え

- **してよいことや悪いことがわかる**
  - ・自分の行動を振り返る
  - ・友達の気持ちに共感する
  - ・相手の立場にたって行動する
- **決まりを守る必要性がわかる**
  - ・自分の気持ちを調整する
  - ・友達と折り合いをつける
  - ・決まりをつくったり、守ったりする

事例 「言っていいんだよ」 ＜安心して思いが言える雰囲気作り＞

8人でドッジボールをしていたが、Aチームの1人が「やめる」といって抜けると、他の3人もやめてしまった。Bチームの子ども達は「4人しかいないからどうしょうか」と話しているところに保育者がやってきた場面である。

保　育　者　「何でやめたんだろうね。」

Bチーム園児　「負けたからとちがう？」

「いつも僕たちが勝ってるから。」

保　育　者　「暗い顔でやめていったね。負けたから楽しくなかったのかな。」

（Aチームの子ども達を呼んできて、互いの思いを話してみる。）

Bチーム園児　「なんでやめたの？」

Aチーム園児　「そっち（Bチーム）ばっかり勝つのがいやだったん。」

保　育　者　「そうだったんやね。でもそれ大事なことだから、やめずに（思いを）言ってもいいんだよ。」

Bチーム園児　「それじゃ、チーム変えしよう。」

その後、改めて『グーとパ』にチーム分けをしてゲームが再開となった。

★「負けてつまらないから」「○○に不満があるから」遊びをやめるのではなく、嫌なら逃げずに言えるようになってほしいという担任の思いもあり、互いに思いを出せることの大切さに気付かせた。

成果と課題

○友達と関わり合う中で思いを伝えたり、相手の存在に気付き尊重する気持ちをもったりして行動する姿が増えてきた。

○いろいろな人とふれ合い、自分の感情や意思を表現しながら、共に楽しみ共感し合う体験を通して人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができている。

●互いに思いを主張し、折り合いをつけるなどの体験をし、決まりの必要性に気付いたり、自分の気持ちを調整したりする力が育つようにしていくことが必要である。

●人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきなどを体験し、それらを乗り越えることにより芽生えてくることに配慮し、適切な支援をしていくことが必要である。

各教科等と関連をもたせた指導 ～地域教材を用いた学習・カリキュラム・マネジメント～

湖南市立菩提寺小学校　http://el.bodaiji.org/

研究主題　豊かな心を持ち、自己の生き方について考えることができる子どもの育成
～ 一人ひとりの児童が自分事として向き合う道徳学習と生活をつなぐ ～

子どもたちが課題を自分事としてとらえることはできるようになってきたが、生活につないでいく難しさを感じている。子どもたちの日常生活の基盤である地域の方と共に学習を行うことで、自分たちの地域に誇りや愛着をよりもてるであろうと考えた。

道徳科を核にしたカリキュラム・マネジメント

取組 1

4年　社会科
「きょう土をひらく」

昔、木の無い山のふもとに住んでいた村長の龍池藤兵衛さんや地域の人たちが、緑豊かな山を取り戻すためにされた努力や工夫について学ぶ。

★道徳科と防災教育を関連させた指導

4年道徳科（市教委作成の地域教材）

内容項目A　希望と勇気，努力と強い意志

「きょう土のい人　龍池藤兵衛さん」

龍池藤兵衛さんにまつわる市教委作成の地域教材を用いて、努力の心について考えた。自分でやろうと決めた目標に向かって、粘り強くやり抜くためにはどうすればよいかを考えることができた。

4年　総合的な学習の時間
「菩っこボランティア」

社会科や道徳科で学んだことを生かして、学校の裏山の砂地になっている部分に、地域の方と共にヒメヤシャブシの苗を植樹した。

私もあきらめずにみんなが安心してくらせる学校を作っていきたい。

取組 2

6年　総合的な学習の時間
「菩提寺学フィールドワーク」

地域のボランティアさんとともに、慣れ親しんでいる校区内の史跡を訪ね歩いた。地域の方に史跡の解説をしてもらうことで、これまで特に意識していなかった場所に愛着がもてるようになった。

★道徳科と歴史学習を関連させた指導

6年道徳科（市教委作成の地域教材）

内容項目C　伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度

「菩提寺の歴史と鈴木儀平さん」

鈴木儀平さんにまつわる市教委作成の地域教材を用いて、菩提寺の歴史を調査してきた人の気持ちについて考えた。１学期に行ったフィールドワークでの学びを想起しながら学習に取り組み、地域に対して自分たちにできることは何かを考えた。

6年　総合的な学習の時間
「菩提寺小学校の歴史」

自分たちが今まで学習してきたことを踏まえて、地域の方と共に菩提寺小学校の沿革にまつわるパネルを作り、40周年記念式典の中で、6年生が発表を行った。

菩提寺のよさを自分たちから伝えるようにしたい。

成果と課題

○地域の方に、気軽に学校へ来ていただき、授業のゲストティーチャーとして関わっていただくことで、子どもたちの深い学びにつながった。これまで特に意識していなかった場所に、愛着がもてるようになった。菩提寺のまちの偉人の功績を知ることで、自分たちのまちに誇りをもち、菩提寺のまちをこれからも大切にしていこうという気持ちをもつことができた。

●道徳科と各教科等の関連をさらに深め、教育課程全体を通じて、道徳教育の充実を図り、自己の生き方について考えることができる子どもを育んでいきたい。

●道徳科の別葉の作成はできているが、道徳科のねらいに応じた活用の仕方をさらに考えていきたい。

児童生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫

高島学園　高島市立高島小学校　www.scl.city.takashima.shiga.jp/takashima-es/
高島市立高島中学校　www.scl.city.takashima.shiga.jp/takashima-jhs/

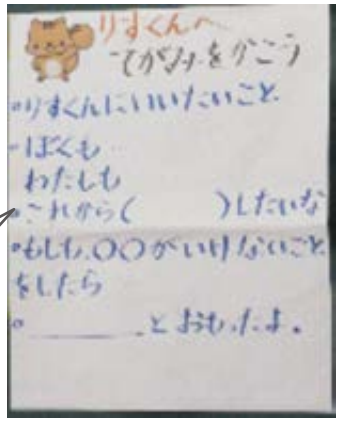
研究主題　**自分の良さを大切にし、認め合いながらよりよく生きようとする児童生徒の育成　～「思いを深める」9年間の道徳教育をめざして～**

小中一貫した学園研究として、9年間のつながり、成長を大切にしながら、「思いを深める」道徳教育をめざす。各チーム（低学年・中学年・高学年・7年・8年・9年・特別支援学級）での日々の授業研究や、小中の授業づくりの交流や授業改善の工夫を重ね、全教職員の道徳科の授業力向上と道徳教育の推進をしてきた。

低学年　教材の世界に浸りながら、自分の思いをもつ

役割演技によって主人公の思いを言葉にする。教師も間に入って、思いを引き出す。

「主人公への手紙を書こう」という活動を設定し、自然に自己の振り返りへつなげる。
「わたしも…」というフレーズのモデルを示す。



中学年　自分の立場をはっきりさせて、話し合う

「こころのシーソー」（思考ツール）に自分の名前シールを貼り、自己決定を大事にする。話し合いをしながら、シールの位置を変えることもある。

中学年　道徳的価値を自分事として考える

地域の川の様子を写真で見ることにより、自分の身の回りに視点を変える。自分は、自然を大切にしてきたかな？と振り返る。

高学年　他者の考えを取り入れながら自分の思いを深める

「こころのものさし」（思考ツール）を使って自分の考えを話す。ペア、グループ、全体などいろいろな場面で自分の考えと他者の考えを比べ、取り入れながら深めていく。生活や行事との関連をもたせることにより、自分事として振り返れるようにした。

7年　板書の構造化と「交流の場」で思いを深める

思いを深めるために、「交流の場」を設定した。自分の考えを言語化し、みんなで考えを聴き合うことで、深く考えることができた。

教材を分析して板書を構造化することにより、自分の考えや他者の考えが理解しやすくなる。終末場面等においては、板書を使って振り返り、「自分事」としてもとらえやすくする。

8年　学級全体で意見の交流を行いながら思いを深める

学級全員での「語り合い」の場面を大切にしている。お互いの思いがぶつかり合ったり刺激になったりしながら、思いが深まっていく。ねらいに向き合い、積極的に質問を交わし合うことも多くなってきた。

事前アンケートや、「心情メーター」（思考ツール）により、思いを揺さぶられ、「自分事」に置き換えながら真剣に語り合い、さらに思いを深め合うことができた。

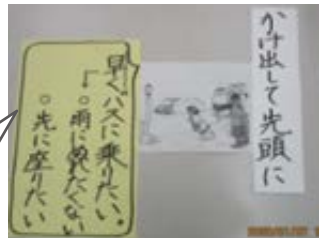
9年　道徳的価値を自分事として考える

類型化しながらグループで活発に意見を交流している。

役割演技をすることや、導入時の工夫で、自然と自分事に置き換えて考えることができ、思いを深めることができている。

特別支援学級　「思いをもつ」ことを大切にする

登場人物の気持ちになって、「どのような場面であったのか」を一緒に考えた。友達の意見を参考にしながら、自分の考えをもつことができ、ねらいに向き合うことができた。



成果と課題

○道徳教育を小中一貫教育に位置付けて研究を進めていくにつれ、教職員間のチームワークが深まり、教材の吟味が習慣化し、授業展開や板書の工夫もみられ、授業改善につながった。また、児童生徒は、自分の考えと他者の考えを比較しながら思いを深め、言語化できるようになってきた。

●児童生徒の道徳性を養うため、児童生徒が自らを振り返り、授業で気付いたことを実生活に生かす工夫が必要である。そのためには、道徳科の授業と他教科や特別活動等と関連付けた指導をさらに充実させる必要があると考える。

ねらいに応じた多様な指導方法の工夫

草津市立南笠東小学校　http://www.minamigasa-p.skc.ed.jp/

研究主題　学びを楽しみ、心豊かに、友だちや地域とつながり、
よりよく生きようとするたくましい子どもの育成
～『考え、議論する道徳科の授業』を通して～

取組 1　「考え、議論する道徳科の授業」の工夫

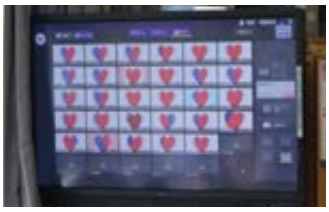
話合いは、児童相互の考えを深める中心的な学習活動であることから、今年度は、「Let's do a talk! ～自分の考えを話し合おう～」を教職員のキャッチフレーズとして、話合い活動を効果的に位置付け、授業改善に取り組みました。

Let's do a talk! ～自分の考えを話し合おう～

▲アンケート調査の活用により、主体的な学びにつなぐ

▲役割演技により、自分を重ねて考える

▲立場を明確にして自分の考えを話し合う


▲ICTを効果的に活用し、考えを交流する

いろいろな考え方があるんだな。〇〇さんのような考え方には気づかなかった。

自分だったら、〇〇みたいなことはできないなあ。だって、わたしなら・・・

子どもたちの話合いの活性化　　教師の授業改善に対する意識の向上

取組 2　道徳教育の環境の充実

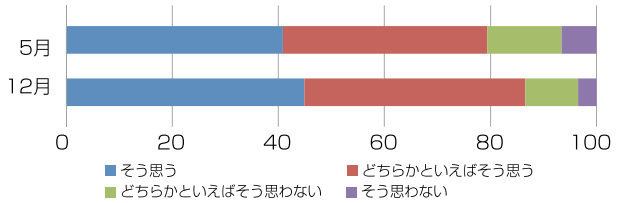
道徳科の学びを児童の日常につなげたり、道徳的実践への意欲を高めたりすることができるように、道徳教育の環境の充実に努めました。

▲道徳掲示板による情報発信

▲授業改善に生かす教材の共有

児童対象意識調査

学級会などの話合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いを付けたりして話し合い、意見をまとめている



成果と課題

○学習面では、自分の考えを視覚化（ＩＣＴやスケール、ネームプレートなどの活用）し、意見交流したことにより、多様な考えに気づくことができ、話合いの活性化につながった。
○授業前には模擬授業を行ったり、授業改善の話題が増えたりして、教職員全員がチームとなって道徳教育の推進を心がけ、意識が高まってきた。
●思考が深まる問い返しなど、話合い活動における教師のコーディネート力を高める必要がある。

ねらいに応じた多様な指導方法の工夫

草津市立新堂中学校　http:www.shindou-j.skc.ed.jp/

研究主題

仲間とともに　考え・気づき・行動する力を育てる
～生徒の心に響く道徳教育の創造～

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業への工夫、板書、問い返し、そして議論のあり方の研究をすすめてきました。評価の視点については新堂中学校バージョンを作成し教師も生徒も共通の視点をもって道徳の授業に臨んできました。日頃の生徒の頑張りや人とのつながりを感じあえる学校環境作りにも力を入れています。

取組 1　『道徳授業で大切にしたい7項目』～授業の視点を生徒にも持たせる～

本校では7つの評価視点を共通理解し、それによって生徒の変容を見ようとしてきました。「学習指導要領解説　道徳編」で述べられている「道徳科における学習状況等に関する評価の視点」を、京都産業大学・柴原弘志教授のご指導を受けながら、本校の生徒にも理解しやすいように作成しました。

「教師もともに考える」そんな思いも込めて教師による寸劇で7つの視点を伝えました。

Rainbow 道徳 道徳科の授業の学び方・考え方の視点

◆色々な思いを比較して考えよう
1　あらゆる見方で「なぜ・どうして」を考えよう
2　自分と異なる立場・感じ方・考え方を大事にしよう
3　いろいろな立場・感じ方・考え方を比較しながら、自分はどうあるべきか、どうすべきかを考えよう

◆自分に結びつけて考えよう
4　（教材との出会い）今の自分はどう思う
5　自分が登場人物だったらどう考えるだろう、どうするだろう
6　これまでの自分を見つめよう
7　これからの自分について考えよう

取組 2　授業実践の充実

◇主体的な学びにつなぐために
- 教材の事前読み・三行感想
- 価値に関わる事前アンケート
- プレゼンテーションソフトや場面絵による教材提示で教材理解への支援

◇生徒が自分事として考えるために
- 1人1台タブレットPCの効果的な活用
- ワークシートや付箋紙の活用
- ハートカード、ネームプレート

◇対話で学びを深めるために
- 1人1台タブレットPCの効果的な活用
- ペア・4人トーク、KJ法

◇授業改善の推進のために
- 「ちょっとのぞいてみませんか、道徳」
- 模擬授業・リレー道徳・もちネタ道徳
- 公開授業、先進地研修　等

取組 3　教育活動全体を通した道徳教育の推進

生きることを問う全校道徳劇

道徳教育に係る環境の充実

生徒会活動

◆全校道徳劇

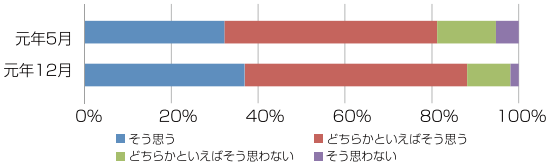
年に一回、生徒会執行部が劇を上演している。「いじめ」や「不登校」、「命の尊さ」等のテーマで、全校生徒とともに感じ考えている。およそ一時間、全校生徒は真剣そのものであり、自己の生き方について見つめることができた。

各教科や特別活動などの取組と道徳科を関連させながら、環境の充実に努めた。

成果と課題

○道徳科の時間に、生徒が自分の考えを発信するとともに、多様な価値観を認め合う姿が見られるようになった。
○教師の授業改善に対する意識が高まりつつある。
●教師の授業技術（教材理解・議論を深める場・時間を生み出す工夫）の向上を図ることが必要である。

生徒対象意識調査　道徳ではほかの人の考えを聞きながら自分のことについてよく考えている



生徒の発達や個に応じた指導の工夫

湖南市立甲西北中学校　http://www.edu-konan.jp/koseikita-jh/

研究主題　人とのかかわりを大切にし、共感する力や豊かな心を持つ生徒の育成
～考え、対話し、議論する道徳を通して～

本校では、生徒の道徳性を養うために、道徳科の時間と学校の教育活動全体で行う道徳教育とのつながりを重視し、その両輪で取り組んだ。生徒の一人一人が自分の思いや考えを語り、他者の考えを傾聴して受け止め、互いに議論することで多様な考え方・感じ方に出会いながら、共感する力や豊かな心を持つ生徒の育成を目指して研究を進めた。

取組 1　学びの充実に向けて

◆主体的に考えられる魅力的な課題の設定を意識し、コの字型の授業形態や4人グループでの対話を通して深い学びにつながるようにした。
◆学校独自の道徳ノートを活用し、自己を深く見つめ、振り返る機会を重視した。

▼コの字型での授業

取組 2　授業の充実に向けて

◆夏季研修会では、2・3学期に実践する教材の指導案検討に各学年で取り組み、ねらいに迫る発問の仕方や授業の工夫を考えた。
◆各回、学年の担当者が指導略案を作成し、それぞれの担任が実践後に改善をすることで、よりよい実践につなげる工夫をした。

▶4人グループでの学び合い

新しい考えに出会う。「伝える・聴く」力を育てる。

▼廊下の道徳の掲示板

道徳的風土の醸成のため、廊下の掲示板に学習の振り返りのまとめや心を耕す掲示物を工夫した。

夏季研修会で教材研究▶

成果と課題

○校内研修会や学年毎の教材研究会を実施することで、教材に対するアプローチの仕方や、いろんな発問、授業のスタイルなどをお互いに学び合える機会が増えた。
●生徒の授業中の様子や振り返りを生かした評価、指導の工夫の研修がさらに必要である。

生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究する指導の工夫
～一人ひとりの社会的自立をめざして～

滋賀県立大津高等学校　http://www.ohtsu-h.shiga-ec.ed.jp/

研究主題　人間としての在り方生き方を育む教育の深化をめざして

●これまでの経過　平成 23 ～ 25 年度 道徳教育総合支援事業・平成 26 ～令和元年度 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業推進校

学校教育を通じた仲間づくりや、人権学習、総合的な探究（学習）の時間等での体験的な学習を通して、人としての在り方生き方を考えさせる取組に力を入れ、生徒の道徳的実践力や道徳性の育成を図った。

●今年度について

昨年度までの成果を踏まえて、各活動に関して道徳教育への意識を高めさせる取組を実践した。また、個々の取組を発展させるとともに、再構築したシラバスをもとに道徳的視点を含んだ校内授業研究、公開授業を全教科で実施した。

●取組の概要

取組 1　授業研究の実施

平成 30 年度からは、各教科4人グループで授業研究会を実施。今年度も、公開授業や外部講師を招いた職員研修会を実施した。

取組 2　他者とのより良い関係の構築を目指す活動

①１分間スピーチ（１・３年）

1年は「高校生活をどう充実させるか」、3年は「自分の進路についての思い」について自分の考えや思いを本音で語り、自分を理解してもらう機会を設けた。これにより、相手の思いを汲み取り、自分の考えを的確に伝える難しさに気付かせた。

②人権学習

1年：障がい者問題（フィールドワーク）

15 のコースを設定。校内外で体験学習を実施した。事前事後にレポートを作成。「障がいがある人に対する差別をなくすため、自分ができることは何か」を考えさせた。

〈盲導犬協会FW〉

2年：在日コリアン問題（事前課題学習と講演会）

渡来人歴史館の見学や「ウリハッキョマダン」への参加など、夏季休業中に課題学習に取り組み、館長の講演で在日コリアン問題への理解を深めた。

3年：部落問題学習（講演会と事前事後学習）

講師の方が生徒と同年代であったこともあり、生徒は熱心に話を聞き、部落問題について理解を深めた。

取組 3　社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す実践

①主権者教育

2年対象の選挙講座「私たちが拓く日本の未来」を開催。講演や模擬投票を通して有権者として求められる力をつけさせた。

②進路学習

・自己理解レポートの作成
・上級学校への校外学習

自分の適性や自分の力を発揮できる場を考えさせた。

取組 4　地域貢献・交流活動の実施　学校家庭クラブ活動・文化部への依頼活動

・商店街ファッションショー：地元商店街に人通りを増やしにぎわいを生み出すため、ファッションショー（3年生が各自でデザインし製作した衣装を披露）を実施し好評を得た。
・平野幼稚園の園児を招いてのお楽しみ会：近くにある平野幼稚園の園児を招いて、お楽しみ会を実施した。
・Smile クラブ（家庭クラブ）による「ZeZe ときめき坂ハロウィン」出店：手作りの「かぼちゃスノーボール」や「さつまいものパウンドケーキ」の販売活動を行った。
・地域の集会（ひらのまちづくりフォーラム）に参加し、家庭科学科の3年生が課題研究（食物分野）の取組を発表した。
・HIRANO 若者交流会（小中高生交流の企画・運営・成果発表）
・「子ども食堂平野学区のぞみ」へのボランティア参加
ごはんを通じて子どもを大事にする垣根のない居場所づくりを目的にして、夕食作り補助としてお手伝いを本年度より実施。

〈ZeZeときめき坂ハロウィン〉

〈子ども食堂への参加〉

取組 5　誰もが輝ける場所のある集団づくり

・学園祭の CIA（マスゲーム）では、クラス全員で一つの表現を作り上げる喜びを体験できた。

成果と課題

○様々な教育活動を道徳教育の視点で整理し、教育活動全体の中に位置づけ、工夫改善し、毎年度継続することで道徳教育が着実に定着している。

●今後も、授業研究や教員研修などをさらに活発に行い、道徳を意識した社会に開かれた教育課程を推進する。

ALL草津で取り組む道徳教育

草津市教育委員会　http:// www.city.kusatsu.shiga.jp/

家庭・地域が心をみがきそだてます

【家庭や地域と連携した道徳教育】
- 道徳科の授業公開
- 草津市地域教材を使った授業実施
- 「地域協働合校」人材バンクの活用
- コミュニティ・スクールの活用

【円滑な接続を考慮した道徳教育】

コミュニティ・スクールの活用

体験が心をみがきそだてます

【豊かな出会いを体験する学習】
- 「夢・未来を抱くスペシャル授業 in 草津」
- 地域協働合校による体験活動等と関連した学習

【読書活動を通じた心の教育の推進】
- 書評合戦「ビブリオバトル」の活動や読書活動の充実

【特別活動等との関連】
- 児童会・生徒会活動との関連

体験活動の充実

研修の充実

ことばが心をみがきそだてます

【道徳科の授業改善】
- 「道徳科の授業改善 指導の手引き」（平成30年度作成）の活用
- ICT 機器を効果的に活用した学習
- 授業研修会等の実施
- 「道徳科の授業づくりと評価　指導の手引き」（平成29年度作成）活用

【道徳教育の指導計画の充実】
- 道徳科と他教科等との関連を図ったカリキュラム・マネジメント

【研修の充実】
- ブラッシュアップ研修
- 道徳教育推進教師の指導力アップにつなぐ研修
- 授業改善　実践リレー
- 希望者先進地研修

【いじめを生まない学校づくり】
- いじめ予防学習プログラム

自己と・他者と考え、対話する草津の道徳科

道徳科の学習では、自己と対話したり、他者と対話したりすることで、道徳的な問いや学習課題を追求します。

【つかむ】
児童生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話合いにつなぐ指導の工夫をします。

学びの明確化

【考える・話し合う】
学習課題につながる精査した発問構成を考えます。また、話合いには必然性を持たせ、多面的・多角的に考えることができるように工夫します。

問いのスリム化

【見つめる・振り返る】
学習課題に基づき、学びを自覚させるために指導の工夫をします。

学びの自覚化

「考え、対話し、議論する道徳」の授業を要にしたこころの教育の充実

湖南市教育委員会　https://www.city.shiga-konan.lg.jp/

湖南市では、「楽しくて力のつく湖南市教育」の実現を目指し、自尊感情を育むために「学力向上プロジェクトによる学力保障」、「こころの教育の推進による仲間づくり」、「地域との協働によるふるさと意識の醸成」を取組の三本柱として推進している。

こころの教育の推進の要となる道徳科の授業づくりにおいては、友だちや教師との対話を充実させることで、物事を多面的・多角的に考えることができるように授業改善に取り組んだ。

心ひらく（授業づくり）

- 道徳も「授業の湖南市スタイル」で児童・生徒が道徳的価値を自分事として捉えて考えられるように発問やふり返りを工夫

心ひろがる（啓発活動）

- 先進校視察で学び合いの学習スタイルを取り入れる
- 道徳科の授業力アップ研修

▲「楽しくて元気になる！」をコンセプトに保育士・教職員全員研修会を開催

心ひびきあう（学校・地域連携）

- こころの教育推進協議会で幅広く意見を求め道徳教育の在り方を検討
- 全校一斉道徳の学習参観の実施
- 地域と連携した道徳的実践の場の保障や自尊感情の醸成

▶ふるさと意識を醸成するため地域教材を活用した授業づくりに取り組んだ

チーム高島で取り組む『つながり響き合う道徳教育』

高島市教育委員会　http://www.city.takashima.lg.jp/

高島市では、長年にわたって受け継がれてきた中江藤樹先生の教え「一人ひとりが高い志をもち、生涯にわたって学び、学んだことを人々のため、社会のために役立てようと行動する人を育てる『志の教育』」を学校教育の基本理念としている。現在、縦をつなぐ「小中一貫教育」、横をつなぐ「地域とともにある学校づくり」を推進し、高島の教育を『つながり響き合う教育』へと高める教育活動を展開している。

道徳教育の推進にあたっては、各中学校区における小中一貫教育の取組の重点として、道徳教育の充実を位置付け、連携協定を結んでいる東京学芸大学の教授等からの指導助言や地域の方々の協力などを得て、新学習指導要領を踏まえた小中つながりのある道徳教育の推進を図っている。

【 挑む（授業改善）】

・道徳教育推進教師を中心にOJT の実践の場として、すべての若手教員による道徳科の研究授業の実施
・教育研究所による研究授業や校内研究会への参加、指導助言

道徳科授業での板書

【 つながる（連携強化）】

・地域教材等の使用時における地域で活動されている方々のゲストティーチャーとしての参加
・「高島市道徳教育推進協議会」の開催

ゲストティーチャーを迎えての道徳科授業

【 響き合う（深め、広める）】

・東京学芸大学の教授等による研究授業の指導助言や模範授業実施
・「研究所通信」による研究授業や研修内容の発信

東京学芸大学附属小学校の教諭による指導

子どもも大人もトイレ掃除から学ぶ心磨き

滋賀ダイハツ販売株式会社 https://www.shiga-daihatsu.co.jp/

滋賀掃除に学ぶ会の運営

「NPO 法人 日本を美しくする会」の滋賀県支部として、「滋賀掃除に学ぶ会」を運営しています。この会はトイレ掃除をすることで自分自身の心を磨き、世の中の荒み、心の荒みをなくしていこうという活動です。トイレ掃除をして得られるとされる「掃除の五徳」を明確にし、子どもも大人もわかりやすく学べる環境で掃除に学んでいます。

平成 22 年に滋賀県教育委員会、生涯学習課の「学校支援メニュー」に登録させていただき、現在では年間約 20 回以上の開催、県内およそ 80 校の小・中・高等学校様のトイレをお借りして開催することができました。平成 30 年 11 月 24 日には栗東市立葉山中学校様にて第300回目の大会を終え、令和元年12月25日には同中学校様にて第 330 回を迎えるまでになりました。トイレ掃除をやればわかる、やった人しかわからないとかではなく、何が学べるのかを明確にして活動しています。「トイレ掃除の五徳」はどなたでも共通する内容です。子どもも大人も関係なく、同じことを学びます。

10 月 18 日　事前学習

10 月 23 日　体験実習

トイレ掃除の五徳

なぜトイレ掃除か？

一、謙虚な人になれる

どんなに才能があっても、傲慢な人は人を幸せにすることはできない。人間の第一番目は、まず謙虚であること。謙虚になるための唯実で一番の近道が、トイレ掃除です。

二、気付く人になれる

世の中で成果をあげる人とそうでない人の差は、無駄があるか、ないか。無駄をなくすためには、気付く人になることが大切。気付く人になることによって、無駄がなくなる。その「気付き」をもっと引き出してくれるのがトイレ掃除です。

三、感動の心を育む

感動こそ人生。できれば人を感動させるような生き方をしたい。そのためには自分自身が感動しやすい人間になることが第一。人が人に感動するのは、その人が手と足と体を使い、さらに身を粉にして一所懸命取り組んでいる姿に感動する。特に、人のいやがるトイレ掃除は最良の実践です。

四、感謝の心が芽生える

人は幸せだから感謝するのではない。感謝するから幸せになれる。その点、トイレ掃除をしていると小さなことにも感謝できる感受性豊かな人間になれます。

五、心を磨く

心を取り出して磨くわけにはいかないので、目の前に見えるものを磨く。特に、人がいやがるトイレをきれいにすると、心も美しくなる。人は、いつも見ているものに心も似てきます。

■事前学習

大宝東小学校様では、3年前からトイレ掃除に学ぶ会の実習をする前に事前学習を取り入れておられます。事前学習では、この「トイレ掃除の五徳」を学びます。その後、実際に掃除を体験して頭の中で考えていたこととのギャップを体感するのです。体験を通して大切な思いを子どもたちに伝えるために、周りの大人も更に学習し共に成長していけるのだと思います。

滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会

「自分への思いを深める『特別の教科　道徳』の在り方」
～家庭や地域との連携を通して～

昨年度の小学校に続いて、今年度から中学校においても『特別の教科　道徳』が始まりました。県小・中学校教育研究会道徳部会では、話合いの充実や豊かな体験活動を生かして「自分への思いを深める『特別の教科　道徳の在り方』を探ってきたことの上に立って、令和元年度は家庭や地域と連携した取組を模索してきました。以下の指導案は、授業前に保護者へのアンケートを実施し、親の働くことに対する思いを知り自分を見つめるとともに、その代表として一人の親にゲストティーチャーとして授業終末に話をしてもらう時間を設定した実践事例です。生徒の豊かな心を育むために家庭や地域社会を巻き込んだ道徳教育が重要であり、家庭や地域の力を道徳科の時間に生かすことが大切であると考えます。

第1学年　道徳学習指導案

1　主題名　いきいきとかがやいて【内容項目 C（13）　勤労】

2　教材名　「看護する」仕事　　（「新しい道徳　1」東京書籍）

3　主題設定の理由

⑴　ねらいとする価値について（価値観）　※ねらいとする価値の良さを描く

勤労は、人間生活を成立させる上で大変重要なものであり、一人一人がその尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、社会生活の発展・向上に貢献することが求められている。勤労には、もちろん自らの生活を維持するという一面はあるが、分業化の進んだ社会の中で一定の役割を果たし社会を支えるという面もある。また、より本質的には、勤労を通して社会に貢献するということを自覚し、充実した生き方を追求し実現していくことが、一人一人の真の幸福につながるものであると言える。中学1年生にはまだ職業としての勤労の経験はないが、働く喜びを考えることを通して、勤労の意義について理解を深めさせたい。

⑵　価値に関わる生徒の実態（生徒観）　※ねらいとする価値を基に、生徒の姿を描く

将来の生き方について漠然としか想像できていない生徒や、将来の夢や希望を描けない生徒も少なくはない。また、自分の職業選択においては、個人の好みや経済性を優先させ、勤労を通して社会貢献する中で得られる充実感や成就感にまで考えが及ばない生徒も多い。そのような中、親など身近な人の話も含めて、勤労が生み出す喜びについての理解を深めることを通して、自身の務めとして心身を労して働くことの尊さに気付かせたい。さらに、2年生で行う5日間の職場体験学習につなげたい。

⑶　教材について（教材観）　※教材の概要とねらいに迫るための資料活用の視点を描く

看護師・助産師として働く宮原さんの物語である。「ただ何となく、人と関わる仕事がしたかった。」という理由で看護学校へ進んだ彼女であったが、講義で聞いた助産師の話に感銘を受けたことをきっかけに、助産師の道を目指すこととなる。病院での仕事は予想以上に忙しく、長時間での不規則な勤務や、全身を使う作業が連続する毎日が続いた。それでも生き生きと働いているのは、この仕事ならではの喜びがあるからだ、と彼女は語る。

彼女の苦労と、それでも仕事を続ける理由について考える中で、生徒たちに、全ての職業に共通する勤労の喜びやその尊さを感じさせたい。

4　ねらい

宮原さんがいきいきと輝いて働いている姿を通して、働くことの喜びは生きがいとなることを理解し、自分に与えられた仕事に進んで取り組むとともに、自分の生き方や働き方について考えを深めようとする態度を養う。

5　本時の展開

	学習活動・主な発問	予想される生徒の思い	教師の支援と評価
導入	1．助産師の仕事について考える。 ○助産師とはどのような仕事だろうか。	・赤ちゃんが生まれてくる手助けをする。 ・赤ちゃんをとりあげる。	・助産師さんの写真をみせて考えさせる。
展開前段	2．教材「看護する仕事」を読んで話し合う。 ○宮原さんはどんな思いで仕事をしているだろうか。 【補助】 ・宮原さんは産婦さんとコミュニケーションを楽しんでいるとあるが、本当に楽しいから話をしているのだろうか。 ○ロールプレイをして、宮原さんの多忙さを考える。	・忙しいし大変。 ・赤ちゃんが無事生まれる手助けをしたい。 ・困っている人を助けたい。 ・安心安全な環境を整えたい。 ・専門の力を発揮したい。 ・忙しいし、早く済ませたい。 ・患者さんの笑顔が見られると楽しい。 ・頼りにされていてうれしい。	・教材名を黒板に貼る。 ・お医者さんのアシスタントや赤ちゃんをとりあげるだけではないこと、仕事は大変忙しいことに共感できるようにする。
	※ロールプレイ　　宮原さんが対応を迫られる場面を設定する ①資料を運ぶ仕事を頼む人（大人の女性） ②トイレの場所を聞く人（中学生） ③体調不良を訴える産婦さん（30代のお母さん） ④生まれたばかりの孫の居場所を聞く耳の遠いお年寄り（80代の老人）		・看護師役１名・患者役４名を指名し、役割演技をすることで、忙しい中でも、皆さんのために頑張ろうとする宮原さんの気持ちに共感できるようにする。複数回実施（シナリオを配布）
	・【補助】宮原さん役の生徒に「どうだった（どんな気持ちだった）？」「大変な中、親切に答えていたね。どんな思いがあったの？」 ◎宮原さんがこの仕事を一生続けていけると思っているのはどんな思いがあるからだろうか。	・大変だけどがんばろう。 ・一人ひとりを大切にしたい。 ・不安や悩みを和らげたい。 ・産婦さんと赤ちゃんを守りたい。 ・人の役に立っていると感じている。 ・自分がやりがいを感じている。 ・人を笑顔にすることがうれしい。 ・大変だけどありがとうと言ってもらえるのがうれしい。 ・自分に合った職業だと思っている。	・膝を折って目線を合わせたり、肩に手を添えたりすることにより、安心感を与えられることを伝え、宮原さんの思いや心づかいのすばらしさに共感できるようにする。 1．ワークシートに考えを記入する。 2．グループで話し合い、ホワイトボードにまとめる。 3．グループごとに発表。 ☆他者と意見を交流し、働くことの意義を多面的多角的に考えようとしているか。
展開後段	3．自分を見つめる ・事前にとった親への働くことのアンケート結果を紹介する。 ○やりがいを持って働くために、今自分に必要なことはどのようなことだろうか。	・本当にやりたい仕事を見つける。 ・楽しく働く。 ・自分の仕事に誇りをもつ。 ・何にでも積極的に取り組む。 ・笑顔を絶やさないこと。 ・人に喜んでもらえることに、喜びが感じられるようにする。	・職業選択の理由や働く中での苦しみや喜びを紹介する。 ・働くことの喜びや一生懸命働くことのすばらしさに気付けるように声をかける。 ☆働くことの意義について、自分のこととして考えを深めようとしているか。
終末	4．ゲストティーチャーの話を聞く。 5．授業を終えて考えたこと・感じたことをまとめる。		・働く喜びややりがいについて話してもらう。

学校・家庭・地域社会で豊かな心を育む（道徳教育推進協議会）

この協議会に参加し、各学校園では、とてもあたたかい実践があるんだということがわかりました。ここで議論された内容が、各学校でも話し合われ、一般の保護者の方々へも広げていければいいと思います。

道徳教育の研究を進める中で、家庭や地域社会とつながる切り口はたくさんあるということがわかりました。道徳で生まれるつながりはすべてプラスのつながりであり、研究成果として大切にしていきたいです。

コミュニティスクールを導入する学校が増えているが、地域と一体となって進めていくための大きな鍵となるのが道徳教育であると思います。

最終的には、誰もが幸せな暮らしができる世の中を作っていかねばならないのであって、だれもが活躍できる道徳の授業がそこにつながっていくのではないかと思います。研究というと難しくなってしまいがちだけれど、だれもが自分の考えを話せて、認め合える道徳の授業、道徳教育の推進を期待します。

滋賀県の道徳教育を考え、推進していく会議に参加し、自分自身を見つめなおして襟を正す機会となりました。また、トイレ掃除を通して、地域と一体となって活動することの大切さを感じています。今後も取組を広げていきたいです。

学校・園、家庭、地域社会が、同じ熱意で子どもに働きかけていくことが大切で、そのためには、それぞれがつながることが必要です。この協議会での学びを生かし、発信していきたいと思います。

道徳科の学びは、即効性を求めるものではありません。いつの日か、「あんなこと考えたな」と気が付く時が来るかもしれません。その時に備えて、道徳の授業で様々な考え方に触れておくことが大切だと思います。

高校生は、保幼小中で多くのことを丁寧な指導で学び、入学してくるのだということを改めて感じます。高校の役割は、そんな生徒たちを、地域社会に貢献し、活躍できる大人に育てることだと思っています。

委員の皆さんからの発言

令和元年度　滋賀県道徳教育推進協議会委員一覧（敬称略）

	氏　　名	所　属　等
会　長	押谷　由夫	武庫川女子大学教育研究所教授
副会長	森　　美穂	滋賀県立大津高等学校校長
委　員	根本　直輝	滋賀ダイハツ販売株式会社リクルート室室長
委　員	松原　洋介	社会福祉法人穴太福祉会風の子保育園保育士
委　員	塚本　晃弘	滋賀県ＰＴＡ連絡協議会副会長
委　員	宮城　智美	大津市立晴嵐幼稚園園長 滋賀県国公立幼稚園・こども園長会副会長
委　員	野瀬めぐみ	草津市教育委員会事務局学校教育課副参事
委　員	松山　妙子	湖南市教育委員会教育研究所研究員
委　員	谷口あかね	高島市教育委員会教育研究所指導主事
委　員	平瀬　佳宏	高島市立高島小学校校長
委　員	一ノ宮賢了	米原市立大東中学校校長 滋賀県中学校教育研究会道徳部会長

資料１　道徳科学習指導案の様式（参考例）

第〇学年　道徳科学習指導案

日　時：　年　月　日〇校時
学　級：　〇年〇組教室〇名
授業者：　職・氏名

１　主題名「〇〇〇〇」＜内容項目＞
※道徳科の年間指導計画における主題名を記載する。道徳科の主題は、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものであり、「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成される。

２　教材名「〇〇〇〇」（出典：　　）

３　主題設定の理由

（1）ねらいとする価値について（価値観）
ねらいや指導内容についての教師の捉え方

（2）価値に関わる児童・生徒の実態について（児童・生徒観）
（1）に関連する児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

（3）教材について（教材観）
使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法
※記述に当たっては、児童生徒の肯定的な面やそれをさらに伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉えを心掛けるようにする。また、抽象的な捉え方をするのではなく、児童生徒の学習場面を予想したり、発達の段階や指導の流れを踏まえたりしながら、より具体的で積極的な教材の生かし方を記述するようにする。

４　本時のねらい
※本時で特にどのような道徳性（心情・判断力・実践意欲・態度）を育てたいのかを記述する。

５　本時の学習指導過程
※一般的には、導入、展開、終末の各段階に区分し、児童生徒の学習活動、主な発問と予想される児童生徒の発言、指導上の留意点、指導の方法、評価などを指導の流れに即して記述することが多い。

学習活動・主な発問	予想される児童生徒の思い	教師の支援・留意点（評価・方法）
※学習指導過程は、 １（導入） ２（展開前段） ３（展開後段） ４（終末）の4つ となる場合が多い。	※予想される発言を分類して書く。 ※記述された発言から本時のねらいが達成されるか検討する。	※「～としたい」という願いだけでなく、具体的な手立てを明記する。 ※評価する場面と評価方法を書く。 （例：ワークシートへの記述）

６　事前・事後の指導の工夫（他教科等との関連）

７　評価
※展開の中に項目を設定して記載することもできる。

８　板書計画
※板書の機能を生かすために重要なことは、思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、教師が明確な意図をもって対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をすることである。

９　その他
※座席表、教材分析、補助資料などを必要に応じて付記する。

ねらいに即して問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な方法を取り入れ、指導を工夫することが大切です。また、学びを深める手立てとして、切り返し発問や意図的指名などを取り入れることも重要です。

資料２　道徳科の評価について

道徳科の評価に関する基本的な考え方（学習指導要領解説より）

・**授業において児童（生徒）に考えさせることを明確にして、**「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める」という目標に掲げる学習活動における児童（生徒）の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、児童（生徒）が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取ることが求められる。

・**年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。**・・・Ⓐ

・評価に当たっては、特に、学習活動において児童（生徒）が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視することが重要である。・・・Ⓑ

具体的には・・・

Ⓑ

一面的な見方から多面的・多角的な見方への発展

Ｇさんは、親切とは相手の立場に立つことが大切であると考えていました。

→Ｇさんは、本当の親切とはどのようなことかを自分の立場と相手の立場を比べながら考えていました。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める

Ｈさんは、生命の大切さを真剣に受け止めていました。

→Ｈさんは、教材の話と祖父のことを重ね、生命は唯一無二のかけがえのないものであることを実感していました。

道徳科においても、学習評価の妥当性、信頼性等を担保することが重要です。そのためには、評価は個々の教師が個人として行うのではなく、学校として組織的・計画的に行われることが重要となります。

Ⓐ

具体的には・・・

継続的に行った授業により見取った評価

授業では、常にこれまでの自分の体験を振り返り、今後に生かそうとしています。
例えば「雨のバス停留所で」の授業では、自分がマナーを守れた経験を想起して、これからも続けていこうという意欲をもっていました。

一つの授業の突出した姿を見取った具体的な評価

学習評価の充実
（1）児童（生徒）のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。
（小中学校学習指導要領第1章総則第3の2）

道徳科の評価に関するQ＆A

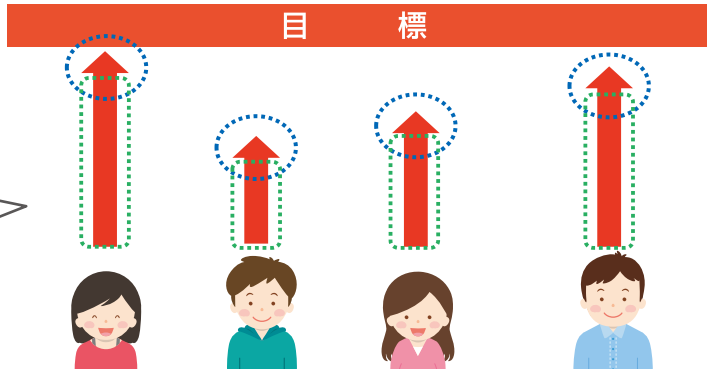
大くくりなまとまりを踏まえた評価とは、どのような評価なのか？

大くくりには、時間的なまとまり、内容項目全体のまとまりという2つの意味があります。子どもの学びを、学期や年間といった時間的なまとまりの中で成長した状況や、特に学びが深まったと思われる授業における姿を取り上げ、評価することです。

道徳科における個人内評価の考え方とは？

道徳科では、目標準拠評価や他者と比べての評価は行いません。道徳性を養うために行った授業において、一面的な見方から多面的・多角的な見方に発展したか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった視点で、個々の児童生徒の学習状況および道徳性に係る成長の様子を見取り、認め励ます評価を行います。

矢印の先の位置（青）や度合いを比べるのではなく、一人ひとりがいかに学び成長したのか（緑）について注目します。



発言が少なく、文章記述も苦手な児童生徒の評価は、どのように行えばよいか？

例えば、教師の話や友達の発言に聞き入り考えを深めようとしていた姿など、発言や記述以外の児童生徒の姿に注目するということも大切です。さらには、授業後に「頷きながらどんなことを考えていたの？」などと質問し、学びを引き出すことも考えられます。

＜関連資料＞・「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）」（平成28年7月22日）
道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議
・平成29年度道徳教育振興だより

滋賀県教育委員会

本冊子並びに過去の振興だより（平成 27 年度～ 30 年度）

令和元年度道徳教育振興だより
滋賀の子どもたちにこころの元気を
道徳科を要とした道徳教育の充実

令和２年３月発行

発行：滋賀県教育委員会
〒520-8577
大津市京町四丁目１－１